

■7. 講演「低炭素地域づくりに向けて～節電のまち荒川の取り組み～」

山本 英一 氏（荒川区 環境清掃部 環境課長）

(1) 荒川区について

荒川区は人口 20 万人、9 万 5000 世帯からなる区です。23 区の中では中規模になりますが、谷中銀座や荒川遊園があり日曜日の散歩にはとても良い場所です。是非皆さんいらしてください。

さて、皆さんご存知のように、2012 年 3 月 11 日に発生した事故以降、東電管内では電力が不足して計画停電が実施されました。荒川区では計 5 回の停電が実施され、区民の方からは厳しいお叱りを多くいただき、電力の大切さを感じました。

西川太郎 荒川区長は、電力不足は一部の地域に負担を強いるのではなく広く対応すべきという考えの下、対策本部を設置しました。

私は 4 月より環境課長として節電対策の事務局を務めており、2011 年夏は様々な節電活動に取り組みました。本日はそのご紹介をします。

(2) 「あらかわ節電マイレージコンテスト」

「あらかわ節電マイレージコンテスト」は、節電努力のマイレージ化というのをイメージして制度化しました。

各家庭には電力会社から「電気使用量のお知らせ」が配布されます。これには前年同月の電気使用量が記載されているので、これを利用して節電努力にインセンティブを付与しようという考えです。具体的には、今年の使用量が昨年より 20%以上削減できた家庭にはプレゼントをお渡しする企画としました。

その結果、7 月から 10 月までで、4523 名の方にご利用いただきました。そして面白い事が分かりました。昨年よりも 30%以上削減できた家庭が多かったのです。これは、区民の皆さんが積極的にご協力くださったことでもあります。家庭の中で節電余力があったという解釈もできるかと思います。

また、アンケートで節電対策も聞きました。エアコンを控えたり、こまめにプラグを抜くといった地道な努力もありましたが、省エネ家電へ買い替えただけで電力使用量が 30%~40%も減ったという声も多く聞きました。その他、意識するだけで何の努力もしなかったが効果が出たという方もいらっしゃいました。そういう意味では、数字を意識する、「見える化」だけでも効果があるようです。

(3) 「あらかわ街なか避暑地」

「あらかわ街なか避暑地」は、区民の皆さんに、電力ピーク時には家庭の電力を切って公共施設で過ごしていただくという制度です。これは多くの自治体ですでに実施されていることですが、荒川区の成功の秘訣は区民の皆さんへの見せ方を変えたところにあります。ネーミングを「街なか避暑地」という親しみやすいものにし、多くのメディアで取り上げてもらえるよう PR しました。限られた財源の中で、知恵と手間をかけた施策であると思っています。

(4) 今後

荒川区では、電力不足に対応するためだけでなく、これを機として恒常的な低炭素の取り組みに繋げていく事が大事だと考えています。ライフスタイルの転換を訴えながら、省エネ、創エネの施策に取り組んでいきたいと思ひます。

以上